夕刊
磐城新聞
三月四日發行
磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

創始後卅年の歷史を持つ郵便振替貯金

平郵便局

三

先づ一年間の受拂口數は
第一位―獨逸七六千萬口
第二位―佛蘭西一一千萬口　第三位―チエッコスロヴアキア一〇千萬口
第四位―墺太利八千萬口
第五位―白耳義七千萬口
と言ふ狀況で、日本は五千八百萬口で第八位である
次に一年間の受拂金額に至つては
第一位―獨逸一、六二四億圓　第二位―佛蘭西一〇一八億圓　第三位―白耳義四四六億圓　第四位―チエッコスロヴアキア三一五億圓　第五位―瑞西三〇一億圓　日本四二億圓
で爲替相場の關係もあるが和蘭『ポーランド』『ハンガリー』墺太利、瑞典『ユーゴースラヴイア』等の如き國よりも少額で、第十二位に位すと言ふ貧弱さであつて我國の產業並金融狀勢から觀て未だ伸びる可能性があり且發達しなければならないものと思はれる

振替貯金の機能

偖て本題に入つて先づ振替貯金とはどんなものかと謂ふと、爲替と貯金制度の兩方の機能を帶びて居るものであつて、一口に言へば振替貯金口座を中心として金錢貸借の決濟を媒介する制度である
『振替貯金は良い計算手を雇つて置く樣なものだ』と或會社の重役が言つたことがあるが誠に其の通りで、加入者にとつては金錢の貸借決濟を正確に而も迅速に處理する忠實な會計係である
其の機能は、大体銀行の當座預金と同樣に現金を用ひず帳簿に依つて相互取引の決濟をするので、振替貯金は此の信用取引を媒介する機關である。即ち此の機能を大別すると左の三つになる
一、加入者自身又は他人が其の加入者の口座に金を拂込むこと、之を『拂込』と言ふ
二、加入者が他の加入者に送金するとき、現金の受授をせずに自分の口座の金を相手方の口座に振替へること、之を『口座振替』と言ふ、此の口座振替は國內の加入者相互間ばかりで無く外國の振替加入者とも利用する事が出來、之を『外國振替』と言ふ
▽

ふるさと

岩村久惠

○曉のもや消えゆけば窓遠く木の間の湖の白く光れり
○見はるかす奧羽山なみのつゞくところ夕燒雲は浮きて明れり（ふるさと）
○亡き兒を葬る夕べは老僧のみ誦經のこゑを淸しくきけり
○亡兒の墓に成りしみ祖の碑の文字は剛く鮮かに刻まれてあり
○亡兒のみ靈安けくしあれ北上の流に近くけふはふりつる

鈴木綾子孃逝く

森里子

水仙に薄日のさむく暮るゝ部屋
花まだ囀りまたで逝かるとは
かへります寧なき雪の旅路哉

季節の齒車

早崎夏衛

4

現實を意識するとともにその底に聯想的心象のあることを見逃してはならないそこでその聯想的心象を摑まねばならないのであるがその心象の構成によつておこる朦朧とした氣分に、ある技術的粉飾をほどこした表現するため、表現されるものは生な現實感でなく、渾然に自然的な統一はあるが、人爲的な統一がなくなるのである。その結果として、作品は半可解なものとし又曖々アイマイに陷入らしめてゐる
現實を意識しておこる氣分を粉飾し形容表現したのみでは、その限りにおいて現實感の要素である必象其ものを把握表現せねばならない

卷の二
―切り花の科學

人間にはそれ〳〵の性術に誰く、强氣弱氣が、その人間に惠まれた時間のすべてを通して循環してゐるらしい。そして評論家においても一般に、わけてこんにちの短歌理論家においては、同じく論するにしても、强氣の場合は積極的に建設向に理論を組織し且解體してゐるが、弱氣の場合は、單純に、粗雜徒らに、ほじくりまはしてゐるのみである
こんにちの短歌論文には、その文章の構成上、ひとつの讀みものとしての魅力を要求する。論文そのもの〻性質から云へば、勿論、このやうな魅力を慾望するのはいけなからうが、何がさて、こんにちのそはついた人間には、斯うしたCOPULATIVEをすら必要とする
道德で日章を書くことを念願してゐる評論家が、今假りに僕らにKRITIK IC'TIFAINDP'と書いて敎へたとしたら一寸マゴつくだらう

△……□――▲
□――□……□

旅藝人よ

四倉　丘月

にゆつと笑ふ　片頰に
さびしさを　たゝえてゐた女よ
流れ行く　旅に
今　何處におはす
惱まなければならぬ人の世に
笑はなければならぬ　委を脊負ひ
流れ行く　旅の女よ
今　いづくで笑ふ
戰ひに敗れそうな　私の心は
歎き多きお前を思ふ
流れ行く　旅の女よ
今　いづくでなげく

題畫題

小野務平

珠雲
槎牙鐵骨勢如龍
雪裏放芳春意濃
誰識澗谿巖穴畔
淸寒一士住高從

寄贈書目

△國民法律（三月號）每月紹介する如く、堅苦しき法律問題を最も通俗平易に解說したる民衆の相談相手（一部十五錢、東京市芝區二本榎一ノ四七其社）

3月5日

△家康朝鮮の使者を引見（慶長一〇）△品川第四臺場に洋式燈臺を設く（明治三）△我國最初の博覽會（同五）△酌婦誘拐團平署に檢擧さる（昭和一〇）

◇
◎▽……

講談　黃金魔刄

(91)

高桑義生作　樋口悅也畫

感傷の曲（六）

その翌朝早く、寶部錦藏と寛之助は宿に歸つたのである
島原屋の一家は、北の稻荷山の下に、さる富豪の別莊に空いてゐるのを借て、ひる前に、宿から直接その方に移つた。東左衞門はあとの事を家人にまかせ、錦藏寛之助、それに繁松の三人をつれて玉江橋のかれの店に行つた。さうしていち其後に居つて、何事か指圖をしてゐた。大勢の雇ひ人や長崎からの繁松などが目まぐるしく出入し、その度に、りん〳〵たる東左衞門の聲が家中に響いた
さういふ中に、くわん之助は一人ぽつねんとして、ひまな體をもち扱つてゐるのだつた。小庭に面した日あたりのいゝ部屋にただ一人さうしてゐると、昨夜の日でうと〳〵と眠くなる
商賣なんてものに何の經驗もないくわん之助、用がないのは當然で、かうしたゐるのは、要するに錦藏の監視のもとにおかれてゐる身の上だからだ
（まるで戰場さわぎだ）
內も外も、かれ以外のすべての人間は、いそがしさうに、何か必死の事でもしてゐるやうに、目の色を變へてゐるのだつた。往來の人間は走つてゐる、そのあわたゞしい足音、さうして折々わッ〳〵といふどよめきが聞ねて來る、何のためかにくわん之助には想像もつかないのである。で、かれはぼんやりと夜來の事を考へて見るよりほかに仕方もなかつた
女中が茶菓子をもつて入つて來た
『ひとつ召あがれ』
『恐れ入ります』
『お二人で御たいくつでせう!』
女中はくわん之助を特別な客分とでも思つてゐるらしい
『ね〻。大そうな騷ぎですね』
くわん之助は何をしてゐるのだとも訊かなかつた。が、女中が、說明してくれた
『場のたつてゐる間はいつもかうなんですよ。こちらはお初めてでございますか。こゝは堂島濱と申しまして日本一の米相場がたつ處でございますよ。小さいものは伊勢暦の文字、大きなものは堂島の米相場などと申しまして、朝から日の暮れるまで、蜂の巣でもつついたやうなあの騷ぎ、每日數百萬石といふ大そうな賣買があるさうでございます』
『はゝあ』
『丁度こゝから少し東にあたりまして、渡邊橋から大江橋の間がそれでございます。それはもう戰場のさわぎで、その繁昌と申しましたら、まづ、何處の國にも類がないと申されます』
『なるほど、すると此方も……』
『いゝえ、お店はさうではございませんが、旦那樣が思惑で、大きな買方にまはつてゐるのでございますよ!』
寛之助もおよそ呑み込みがついた。東左衞門は相場を張つてゐるのだ。今日この頃の東左衞門に見られない活氣、張りつめた意氣がかれの聲に感じられる。それは血みどろな商戰である采配をふるふ東左衞門は、三軍を叱咤する將軍で、雇人たちは士卒だ。すると錦藏はさしづめ參謀格といふ處であらう。かうして見ると、何でもおなじ事なのだな――と寛之助は思ふのである
『御たいくつしのぎに見物にお出でなすつては如何でございます? お話のたねでございますよ。なか〳〵面白うございますよ』
『ね〻』
寛之助は生返事である。活手に出られない身分だ
女中は其處でおこなはれるいろ〳〵の奇習を話して立ち去つた
たいくつな一日が暮れた
東左衞門は上きげんで儲かつたえびす顏で
『何處かへ繰込まう』
などといつたが、錦藏が
『今夜はこれの事があります。お約束です』
と寛之助を指さした

廣告

磐城名物
靈峰羊羹
小川鄉驛前
平屋賣店

下痢病妙藥ヲ御紹介致シマス
天下一品散
平町ネヅミ坂角

特約店
桑原商店
【東京大阪賣藥二販ズ】

平町南町
大和田醫院

送り物に
鰹節と
干やなぎ
一　魚問屋
平町四丁目　電二一三一

夜間診療
胃腸性病
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平町南町　電一〇七番）

新設
外科、內臟外科
エッキス光線科
產婦人科
院長　安齋徹
醫學士　黑澤廣
平町田町
入院隨意
安齋醫院
電話四七五番

藥品
百貨
福島縣平町二丁目
西村屋藥舖
藥劑士　鈴木堅助
電話三番
振替　東京六・二二九九　仙臺一・二〇一

產婦人科
外科
藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　內木宗八
藥劑師　大岩俊雄
入院隨意
病室完備
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

公債　社債　現物賣買　擔保貸附
日本商事株式會社平支部
平町鍛冶町十八

社員採用
固定給參拾圓外手當支給
二十才以上五十五才迄
希望者は履歷書持參本人來談

皮膚の整調は
フトメルで
しもやけ、たゞれ、すり傷、くさ、あかぎれ、ひび、丹毒、胎毒、水虫、やけど、
平町田町
吉　阿部藥舖

魚はニッポン・魚は澤魚
御贈答用品
日本水產特約
平製氷會社
電二二八・三二六番
鯛　銀鯛　北寄貝
エビ　甘鯛　帆立貝
白魚　甲イカ　目拔切身
アカヂャ　鱈　うに貝燒
ヒノマル凍魚
代理店　四丁目
ト印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

春の
サロン
食事、喫茶、酒場を兼ねた
男給の店
平・田町・電三五二

冬の通學服賣出

中等生用

國防色	6號	4.00
	7號	4.20
黑小倉	特A6號	3.80ヨリ
	A 6號	3.50ヨリ
	B 6號	2.00ヨリ
別注文	國防色	5.50均一
	黑小倉	6.20均一

ふかや洋服店　平三　電203

入院隨意（自炊の便あり）
外科
X光線科
專門
平南町
病室完備
上田醫院
（電話一二九）

不合理も甚しいと 保險料率引下げ運動
現在の千分の十一に對して 平町で近く當路へ陳情

平町の一般火災保險料率は現在の千圓に對し十一圓で他方面に多い七圓に引下ぐべく過般の町會に於てこれが運動委員として

酒井　馬目雅　根本品
吉田寅　萩原　野崎　井上

の諸氏を擧げ各方面の調査を進めて來たが愈々完了を見たので近く仙台、東京地火災保險協會知事等に消防施設優良を認められて優良旗を授與され水道の增設工事完成等で今や何等不安を感じないのに高率保險料を徴せらるゝことは獨り契約者の苦痛のみでなく本町經濟に及ぼす處重大なる陳情を起す事となつたので各方面からこの成行きを刮目されてゐる

中寺をトップに 春駒セリ日割決定
各方面で前人氣旺ん

郡下に於ける今年の駒糶は來る三十日からの澤渡村中寺をトップに左の日割で行はれる事に決定したが今年は馬政第二次計劃初年度であるだけに出場馬數も多く從つて總賣上高も相當の額に上るものと見られて居り軍馬買上げ、公認並に地方競馬用及び各地の種牡母を始め農役馬に至るまでその賣買價格も逐年增額の傾向にあり、他方軍事上極めて重要な役割を持つ産馬に對してはあらゆる奬勵方法が講ぜられてゐるので連年凶作に襲はれた農村もこの駒糶によつて相當潤すことが出來るであらう

△中寺三月三十日—四月三日 △上遠野四月五日—八日 △黑田十日—十二日 △桶賣四日—六日 △上小川九日

産業開發を目指して 中堅青年の雄叫び!
昨日の實務青年協議會

産業實務青年協議會郡下の分は昨三日午前九時から小名濱實業學校で開き縣から諸橋學務部長その他臨席郡下の實業教育振興會地方幹部、男女青年團、青年學校關係者多數出席盛會だつた當日の産業青年の體驗研究發表は左の二十八君その他に種々協議あつた

『更生せんとして』勿來北郷濟『蕃茄の早熟栽培について』勿來下山田孝一郎『菜種油搾取の實際』錦赤津彦夫『八ケ年の蒟蒻栽培』磐崎大平義平『集約的農業經營』平窪川角由一『農業に心をおいてより』大野門馬榮『山間部に於ける昨年度の水稻栽培を顧みて』澤渡齊藤富壽男『農産加工に就いて』好間中村慶次『實際的養豚の研究』渡邊蚶田壽『日常の料理について』渡邊高木キミヨ『プラム栽培の體驗』小川市川嘉積『體驗を語る』小川草野昇『私の副業』植田古川榮『稻作と氣象との關係』上遠野高木四郎『枯露柿火力乾燥法の體驗』磐崎瀧彌二伊『茄子栽培並に販賣法』植田須田保平『水田の七割二毛作を目指して』草野吉野信次『私の農業經營』泉齊藤忠勇『漬物に就て』泉新妻好子『記帳生活に就て』大浦大樂正司『革新稻作法』三阪草野保一『商の道』中圓谷定一『葱栽培の秘決』神谷箱崎惣作『温床の作り方に就いて』神谷國井光義『我家の更生を目指して』玉川齊藤庄一『ホームスパンに就て』玉川橋本わか子『職業所感』豊間遠藤光一『我が農業實行組合の經營に就いて』鹿島園部平四郎

小學兒童劍道大會

武德會平分會主催の第二回郡下小學兒童劍道大會は愈々來る八日午前九時から平第三小學校に開かれるが早くも四倉、草野、赤井第二小學校から出場申込みあり、續々申込みあるものと見られ熱戰を豫想されてゐる

三中等校學期考査

磐城中學では明五日より、磐女は八日より、中商は十日より何れも一週間學期末考査を行ふ

殉職警官に同情集る
誠に少額ですがと 寒河江君の美擧

帝都不祥事件に際し死を以て警護の任に當つた殉職警察官に對しては目下各方面から同情金が集つて居るが今四日平署にも『自分はいま平に出張してゐるものですが一命をすてゝ警護の任に當つたのにはたゞ感謝の外ありません、殉職警官の香料としては誠に少額ですが』との意味の手紙に添ねて相馬郡原町磐城無盡出張所寒河江梅吉氏より金五圓を贈つて來たので柴田署長も少らず感激直に警視廳に差送る事となつた

急場を凌ぐ拂下米 郡下山村へ八百俵配當
各方面から要求續出か

昨年の凶作地方救濟策として縣が樹立した政府米購入は代金延納の請願が認められないので折衝の末やうやく本年十一月末日までに納金する條件でこれを許可されることゝなりその手續き中のところ今回帝都に惹起した事件のため大藏省の承認が永引く模様で、縣下各凶作地方では切實に飯米の要求をするに至り縣に至急政府米の拂ひ下げを請願する向が增加して來たが二十九日四件の政府米拂ひ下げが決定した、右の內石城部は澤渡村組合五百俵、田人村組合は白米二百七十二俵が許可となつたもので今月中には一層飯米拂ひ下げの要求が續出するものとみられ、縣でも政府米拂ひ下げ至急許可方を要請することになつた

陸軍記念日に 大浦大野聯合演習
參加二百五十餘名

大野、大浦兩村在郷軍人分會では聯合の上來る十日の陸軍記念日に聯合演習を行ふが青訓生その他參加二百五十餘名で輕機關銃を使用する

磐中で講演會

磐城中學校では記念日行事として九日午後二時半から横須賀鎮守府出仕海軍大佐千葉慶藏氏の『海軍々縮會議協定不成立と我國民の覺悟』と題する講演會を開く

弓道階級試驗

武道會本部主催の郡下弓道階級試驗は來る二十九日平署弓道で縣大平範士により行はれるが參加三十餘名に上る見込み

地久節 婦人報國祭

平町婦人會、愛國婦人會、國防婦人會兩分會、女子青年團の各種團體では明後六日の地久節を記念し翌七日正午から平第二小學校で報國祭を擧行

國旗揭揚　式辭　宣言　遙拜　萬歲三唱

に次ぎ既報の如く愛國婦人會專任講師杉本春喜氏の講演をきく

人生裏道 一と皮剝げば
平町世相萬華鏡 A
魅惑の巷カフエーの巻

十五世紀の末葉、葡の航海者ヂヤスが發見した『あらしの岬』喜望峰から、一寸針路——ではない爪先きをかはして銀行の角を曲ると其所は印度洋でも大西洋でもない田町のネオン街。目も綾なる光りの交錯に早くも若人の胸は高鳴る

水無き港。凡そアクロバテックな簡易戀愛遊戲場ではある

×

そこには至つて線の甃はない蔫口の樣な或は拳骨の樣な鼻尖に、宛然トラックのコースよろしく一直線に白粉を塗り下げた所謂『地上の白魔』が、綺麗に云へば龍宮のダンスホール、對蹠的に形容すれば——冥府の國を聯想させられる樣な、色電氣の下に蒼々乎と黄色い齒齦を見せて一齊に『入らつしやい』と動物的の奇聲を抹消的に跳ね上げる

×

『君の情操はリファインされて居ないよ』じよ、じよ冗談を云ふ勿れだ。由來カフエーと云はるる程の處へ集る女性ではないか、尤も稀には『ありし日女學校に通ひける。その頃ほい……』なんて擽つたいのも無いではないが、其れとて詳く洗へば『實科』とか『裁縫』とか頭に附く字があると云ふてあひ

『あれが××心中未遂の片割れだよッ』

と呼かれて

×

『ウエッ』

と飛び上るなどは、野暮天なんど云ふ許り無しさ

×

まさかヅロースの後方部に奇怪千萬な通風口を拵ねて置く樣な不心得者もあるまいが、親爺や總領兄キの手前は事後承諾と肚を極めて、納めのツリを流用するあんちやん等を向ふに、チツプの前には世にも粗製濫造のお愛嬌を殆ど無制限に振り撒く事を忘れぬ彼女らではある

×

『あなた眼鏡を掛けた方が似合ふわ』

憑座ことを云つて摺り寄られる時、村では斷然存在を認められてゐる中堅處。消防伍長而して青年團幹部で納まつて居る彼氏の手は既に私かに懷中の而もナメシ革で造つた親讓りの蟇口に掛つてゐたのである

×

悔恨と慚愧と醉ひざめの惡寒に顫ねる足元を踏み締め乍ら、彼氏がゴノ菌豊かな拋物線を寒波に躍らす頃彼女はいそ〳〵と星斗燗干たる深更をそれと反對の方向に消れた

◇——□……□——◇

千九百四十八回 聽衆無慮十九萬餘
總選擧の言論戰決算

今次總選擧に於ける第三區各候補者の政見發表演說會開催數並これが聽衆左の如く合計回數千九百四十八回聽衆人員十九萬一千三百三十七名であつた

	回數	人員
比佐	五九	七、五四五
星	一四四	二一、三六六
氏家	二六	八、七七八
松本	三〇	九、〇七五
鈴木	七一	五、〇七五
植松	八九	一六、四六五

燒死女は 精神異狀者
附近の同情集る

昨報—自宅で風呂番をしてゐるうち衣類から燃ね移り遂に燒死した箕輪村大字大利農根本幾太郎の娘テル(三〇)は多少精神に異狀を呈してゐたもので何せ山奥なので直に醫師の手當を受ける事が出來なかつたので遂に絶命したものであると

小名濱魚市場 埋立進捗

過般着工した小名濱魚市場の埋立工事は其後順調に進捗し淡渫の出來次第本工事に着手する事になつてゐるこれが完成後は同地先に廣大な新漁業地帶が出來上り魚市場も今年度には完成するので各方面から期待をかけられてゐる

魚市場は總豫算四萬四千圓、總建坪三百九十五坪來十月迄に一切の設備を了し秋の漁獲から使用を開始するが二百坪を水揚場に、事務所は鐵筋コンクリートのモダンなものであると

授業料、戸數割値上
平窪の十一年度豫算 總額二萬九百九十圓

平窪村では此程村會を開き十一年度豫算を議決した、歲入二萬九百八十八圓、歲出經常部二萬二百九十一圓臨時部七百九十七圓で前年に比し大差ないが歲出の增加は小學校費六百八十九圓青年學校費百十圓

財政經理上小學校並青年學校女子部授業料を各二十錢値上、特別税戸數割は一戸平均一圓增額の十三圓五十二錢で總額六千三百八十五圓

本會議は 明後六日か
平町豫算審議進む

厖大な平町十一年度新豫算を審議する委員會は昨三日から開かれたが決算は佐々木龍若氏を委員長にして檢討の結果今四日終了、豫算は野崎滿藏氏を委員長に種々檢討明五日を以て完了するが大体原案可決と見られてゐる、從つて本會議は六日頃開かれる事となつた

何時迄續く根比べ 再び反對
中野氏の特戸異議申立 また〳〵行政裁判か

平町新川町中野勇吉氏と町當局の根くらべ、戸數割賦課異議申立十一年度分も過般町が町會の決議により却下した事から當然縣參事會に訴願され來る十八日頃開かれる定例參事會に於て裁決される事になつたので町では此程開かれた町會に附議した結果また〳〵反對に一決したが前例に徴しても再び參事會で却下され更に行政裁判を仰ぐ事になるものと町當局では觀測してゐる、尙七年度分の行政裁判は來る八日開かれる筈であつたが今回の不祥事件で無期延期となつた

落ちた金、金! 一萬五千四百兩
昨年中の遊興調べ —鎌田遊廓に

廢娼を前に蚊細い悲歌をなげいてゐる鎌田遊廓昨年中の遊興調べ——二月初午の大火に五軒が三軒に減つて急にさびれてしまつたが登樓人員〆て八千百九名、この遊興費一萬五千四百五十八圓五十錢

一ケ年を通じては何と云つても花見時の四月八九五名一、六一五圓七十錢とボーナス月十二月の八三〇名一、五四五圓八〇錢が最高

前年對比の正確な數字は出來て居らぬが軒數の減つた事によつて一軒當りの割は以前より幾分よいだらうと云つてゐる

天氣豫報
小名濱測候所觀測

今晩は北西の風晴、明日は北西の風晴一時曇

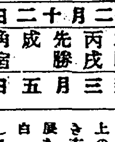
平窪村から

●●●● 納税組合役員　同村上岡組合を此程新設組合長馬目悅善、會計岡部直久兩氏選任

●●●● 學校諸行事　七日青年學校夜間授業終了式、十日陸軍記念日小學校遠足會、十七日青年學校卒業式

●●●● 青年團役員改選　團長松崎金松、副中村敬二、同國府田忠男、會計小野若松、高萩盛男、幹事小野濟外五名

●●●● 小學校增築　生徒增加に伴ひ三學級を增築十一度に起工、次回村會で豫算決定



舊二月十二日　木曜　丙戌　先勝　成　角宿　新三月五日

諸判定應需　東京市本鄉區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　手違ひ思ひ誤りを生じ易き日樂觀す可らず▲二黑　些事と雖油斷するな災を招き易し爭論注意▲三碧　見込違ひの損害大なる日金錢貸借間違あり▲四綠　內外にわき起る手違にて辛勞多き不快の日▲五黃　常道を守りて平穩無事を心がくべき日なり▲六白　向上の氣運を有すれば進むに不可なき吉日▲七赤　物事ゆくわいに進展を遂ぐる大吉日奮勵すべし▲八白　くわん急時に應じて處斷すべし又健康上に注意▲九紫　家庭圓滿福祿增進の日起業開店建築凡て吉

五日（小名濱測候所調査）
日出 六、〇三　月出 後 二、五七
日沒 五、三五　月沒 前 四、〇七
滿潮 前 三、二五　後 一、三〇
干潮 前 八、三〇　後 八、五〇

産婆看護婦 生徒募集
願書締切 四月五日迄
平町一丁目
平町揺槌小路一番地に新築移轉す。
石城產婆看護婦學校
電話 三五七番

おでんとやきとりでお氣輕に一平（イッペイ）
五日開店
出前迅速
谷口通り
電話二六三番

五十嵐產婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士 五十嵐雄二
電話三七〇番
（入院應需）

內外建築材 建具材
磐城國平町（公園下）
阿部材木店
阿部好利
電話四九四番（改メ）

長女綾子儀永らく病氣の處本日午後一時十分死去仕り候に付此段御通知申上候　敬具
追而葬儀は來る三月五日午後二時自宅出棺菩提院に於て執行仕るべく候
昭和十一年三月三日
父 鈴木彌太郎
外親戚一同